



訪問看護ステーションわかば
訪問看護師

那須典子 さん

わかばクリニック院長

片山貴文 先生

那須さんは訪問看護にアロマセラピーを用いているアロマインストラクター(AEAJ)でもある看護師で、現在はセラピスト資格の取得に向けて勉強中。そんな那須さんの活動を、期待をもって片山先生が後押ししている。



『訪問看護ステーションわかば』

2013年12月開所、看護スタッフ6名。熊本市を中心に御船町や益城町などに出向き、希望者にはアロマを使った訪問看護も行っている。住所／熊本市東区若葉6-3-58



(右上)「本当に求められる医療」を目指す連携先の『わかばクリニック』(右下)スタッフ全員で、アロマ活用に取り組んでいる(左上)那須さんによる気持ちのいいアロマでの癒しを、心待ちにしている利用者も多い(左)折鶴の中にアロマオイルを落としたコットンを入れる“香り鶴”は、利用者の枕元に



訪問看護でアロマを利用し、心地よいケアを目指しています

「利用者の方には、アロマではなく『香り』や『におい』という言葉を使います。嗅いだ経験のあるオレンジや柚子、ヒノキの香りは人気があります」と、とても柔和な語り口の那須さん。訪問看護事業所では珍しくアロマセラピーの導入を進め、現在はスタッフ一丸となつてその活動に取り組んでいるのが『訪問看護ステーションわかば』です。「問診後に医師の指示があつた上で、約半数の方がアロマトリートメントや足浴・芳香浴などを利用して使います。むくみが酷くて車椅子生活をしていた方が、トリートメントと利尿剤の利用で足首の回りなどが2〜3センチ減。車椅子からベッドへの移動ができるようになりました」

と自らのことのように嬉しそうに話す那須さんは現在、より専門的なアロマセラピストの資格を目指して通学中です。「より質の高いサービスを提供したいし、このステーションで信頼して任せてもらっているということが嬉しくて、それに応えたいんです」。熱い思いを胸に、ケアマネージャーや他事業所スタッフを集めての勉強会、200ヶ所以上の居宅介護施設に配布するニュースレターなどで、アロマの効用を伝えていきます。そんな那須さんの背中を押して、また導いているのが、連携先である『わかばクリニック』の片山院長です。「認知症の治療にも限界があり、他に何かないかと思つていました。今は医療以外の臨床美

術やアロマなどにも注目が集まっているし、オイルを使ったフットマッサージがむくみにいいと分かつていたので、だったらアロマを使おうと。やるからには効果が見えるように、またやったことに自信が持てるように、きちんとした評価を目指すようアドバイスしました」と片山先生。その提案を受けて那須さんは、皮膚の状態、オイルの量や見通しまで細かい評価表を作成し、継続的な変化を記録しています。「アロマを使うと利用者さんの笑顔が増えて、嬉しくなります。心地よいケアをアロマで提供していきたいですね」。那須さんと片山院長が目指す医療とアロマの連携。その志は、着実に利用者の元に届いています。